

### 1. 熊本地震に伴う熊本城の修復事業（仮称）

..... 熊本市中央区

平成28年4月14日に発災した平成28年熊本地震により、熊本城は過去類を見ない甚大な被害を受けました。

その被害は、倒壊・崩落一部損等を含め重要文化財建造物13棟及び再建・復元建造物20棟の全てが被災し、石垣は全体の約3割に当たる約23,600㎡に崩落や膨らみ・緩など膨らみ・緩など修復を要する箇所が見受けられるほか、便益施設等26棟も屋根や壁が破損し、地盤についても約12,345㎡に陥没や地割れが発生するなど熊本城全域に及びます。

この甚大な被害を受けた熊本城復旧には長い歳月と多経費を要するが見込まれ、現在把握している被害だけでも、その被害額は、概算で約634億円に上ります。

<熊本城復旧の基本的な考え方>

- ①復興のシンボルである天守閣早期旧を目指す。
- ②文化財的価値を損なわない丁寧復旧を進める。
- ③復旧過程の段階的公開を行い、観光資源として早期再生を図る。
- ④耐震化など安全対策に向けて最新技術も取り入れた復旧手法の検討を行う。
- ⑤“100年先の礎づくり”として未来復元整備に繋がる復旧を目指す。



### 2. 平成24年7月九州北部豪雨 白川河川激特災害対策特別事業 .....熊本市北区龍田陳内地先外

平成24年7月12日の梅雨前線の豪雨により、白川水系の流域面積の約8割を占める阿蘇カルデラ内を中心に短時間に記録的な大雨となりました。この豪雨により阿蘇カルデラ内を流れる白川水系黒川や熊本市街地を流れる白川では、河川の水位が観測史上最高の水位を記録し、洪水が発生し、流域全体で未曾有の被害が発生しました。

この災害に対して、白川水系白川及び黒川は河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）として平成24年11月に採択されました。

白川の激特事業においては、明午橋～みらい大橋間の、河道掘削、築堤・護岸、樋管、橋梁架替等を概ね5ヵ年で実施していくこととなり、

熊本市街地を流れる白川水系白川の県管理区間では、今回と同程度の洪水に対し、家屋の浸水被害を解消することを基本に、河道掘削、築堤等の河川改修を集中的に実施しています。



### 3. 阿蘇大橋地区斜面防災対策工事

平成28年4月16日に発生した本震により、熊本県阿蘇郡南阿蘇村立野地区において長さ約700m、幅約200m、崩壊土砂量約50万 $m^3$ に及ぶ大規模な斜面崩壊が発生しました。

この崩壊により阿蘇地域の生命線である道路・鉄道等の交通インフラが失われ、地域住民の生活・経済に深刻な打撃となり、早急な復旧が求められています。

崩壊斜面の頭部には多数の開口亀裂や切り立った滑落崖があり、余震や降雨による更なる崩壊の危険性がありました。

このため、無人化施工技術を駆使し、崩壊斜面下部における土留盛土の設置や、斜面頭部への分解組立式バックホウの空輸、高所法面掘削機（遠隔操作）による不安定土砂の除去を行った上で、平成29年1月より崩壊斜面下部での有人による施工と交通インフラの復旧に向けた調査が進められているところです。

更に、平成29年7月からは崩壊斜面上部よりネット工等による斜面の恒久的な安定化対策に着手しています。現在、斜面全面での有人作業による対策工事実施に向けて、工事は順調に進捗しています。（平成30年8月現在）

### 4. 阿蘇大橋架替工事

国道325号阿蘇大橋は、平成28年4月16日に発生した本震により大規模な斜面崩壊で通行不能となり、現在、国が熊本県からの要請を受け、道路法に基づく国の権限代行事業として、平成32年度の全線開通を目標に災害復旧事業を行っています。これまでに4回の技術検討会を開催し、崩壊前の阿蘇大橋から約600m下流の位置に橋長345mのP C 3径間連続ラーメン箱桁橋にて架け替え工事をおこなっております。新橋本体を含めた架替ルートは全体で約1km、「アプローチ区間」を含めた橋梁延長は525mとなっています。昨年度までに、阿蘇大橋本体内工事の進入路となる斜面工事及び用地買収が完了しました。現在は、阿蘇大橋下部工工事のための仮設工事及び基礎工事を進めています。阿蘇大橋前後区間についても道路改良工事やアプローチ橋の下部工工事を実施しております。

また、阿蘇長陽大橋を含む南阿蘇村道桁の木立野線は、昨年8月27日に応急復旧により開通しています。これにより阿蘇大橋が完成するまでの代替ルートとして、阿蘇観光の玄関口としての経路を確保するとともに、併せて南阿蘇村の中心部と立野地区を結ぶ南北方向の通行を確保しています。（平成30年8月現在）

熊本県阿蘇郡南阿蘇村立野地区



熊本県阿蘇郡南阿蘇村立野地区

